

## 藤沢市総合教育会議 議事録

会議名	令和2年度第1回 総合教育会議
開催日	2020年(令和2年)8月19日(水)13:30~14:35
場 所	本庁舎3階 会議室3-3
出席者	(市側) 鈴木市長 (教育委員会) 岩本教育長、木原委員、大津委員、飯島委員、市村委員 (講師) 平井聡一郎氏 (関係職員) 教育次長、教育部長、教育総務課長、同課主幹、同課指導主事、教育指導課長、同課教育指導主事、

### 【議事録】

#### 事務局(司会)

- ・これから「令和2年度第1回総合教育会議」を開催いたします。
- ・この会議を開会する前に、ご来場の皆様にお願いがございます。携帯電話は電源をお切りになるか、マナーモードに設定をお願いいたします。
- ・本日の傍聴者の皆様に録音、録画、写真撮影を行う方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。(なし)
- ・なお、事務局にて会議の記録のために録音と写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。写真撮影は、傍聴の方の顔は写らないように配慮いたしますので、よろしくをお願いいたします。
- ・続いて、総合教育会議開催に当たり、本会議の目的について、改めて確認をさせていただきます。この会議の目的は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育の課題やあるべき姿を共有し、次代を担うすべての子どもたちを市全体で見守り、育む取組を共有する場であります。
- ・本日のテーマは「with コロナ、after コロナにおける学校のICT教育について」を予定しております。
- ・それでは、開会に当たりまして、総合教育会議の座長であります鈴木市長に一言ご挨拶をお願いいたします。

## 鈴木市長

- ・皆様、こんにちは。教育委員会の皆様には、新型コロナウイルス感染症という今まで経験のない事態の中で、新たな課題に立ち向かっていただきまして、誠にありがとうございます。そういった中で、教育委員会と市長部局との連携、情報の共有が大変重要であることを改めて認識することができました。今後ともこういった機会を通じまして、目的に向かって連携して行っていきたいと思っております。
- ・2ヵ月間にも及ぶ学校の休業措置や、休業に伴う時短授業の対応等もありまして、青少年関係の方々にも参加をしていただき、乗り切ってきたところでございますが、感染者数は、7月は4月の感染者数ぐらい、8月はその倍ぐらいに増えている状況もありまして、予断を許さない状況ではないかと思っております。
- ・そういった中で、学校は来週からということで、先々の不安を抱えた中での授業が始まっていくのではないかと思っております。そういった中で ICT 化を推し進めていくことの重要性も認識をしているところでございまして、GIGA スクール構想について、藤沢も遅ればせながら次年度ぐらいには1人1台の ICT 端末をということで進んでおりましたけれども、こういった事態になりましたので、6月時点で、今年度中に1人1台の配置をしていこうと、前倒しを決めたところでございます。しかし、数は揃ってもそれを担う人々がいないといけない訳ですから、そういったことも重要であると思ひまして、本日は、色々なところで ICT 教育の導入に努めておられる平井先生をお招きしておりますので、ぜひ有意義な総合教育会議になればと思っております。よろしくお願いいたします。

## 事務局（司会）

- ・次に、本日、ご出席の教育長及び教育委員会委員の皆様から自己紹介をお願いいたします。  
(委員等自己紹介)
- ・続いて、本日の資料の確認をさせていただきます。(資料確認)
- ・それでは、ここからは座長である鈴木市長に進行をお願いいたします。

## 鈴木市長

- ・それでは、次第の3「議事録署名人の決定」について、事務局から説明をお願いします。

## 事務局

- ・今回は、鈴木市長と岩本教育長にお願いしたいと思ひます。

## 鈴木市長

- ・今回の議事録署名人は、私と岩本教育長ということでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

## 鈴木市長

- ・次に、議事（１）について、事務局の説明をお願いします。

## 事務局

- ・本市の学校における ICT 環境につきましては、文部科学省が提唱する「GIGA スクール構想」や新型コロナウイルス感染拡大防止を契機に、加速的に整備を進めているところでございます。現在、中学校の半数で 1 人 1 台の端末の整備が完了しております、今月末までに残りの中学校、2021 年 3 月までに小学校、特別支援学校への整備が完了するように進めているところです。こうした中で、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、小中学校の休業対応や感染防止対策として、さらなる ICT 教育の推進を行っていくに当たり、学校の ICT 教育導入のスペシャリストでいらっしゃる平井様より、「with コロナ、after コロナにおける ICT 教育について」及び本市の ICT 教育を円滑に進めていくための最適な手法や、他の自治体での取組事例の紹介などのご講演をいただきまして、その後、皆様との質疑、意見交換を実施してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
- ・それでは、本日の講師を務めていただきます平井様のご紹介をいたします。平井様は、茨城県の公立小中学校で教諭、中学校教頭、小学校校長として 33 年間勤務をされ、その間、茨城県教育委員会等で指導主事を務められました。茨城県の古河市の教育委員会では参事兼課長として、全国初となる「セルラー型タブレットとクラウドによる ICT 機器環境」の導入を推進されました。その後、茨城大学非常勤講師、文部科学省の教育 ICT 活用アドバイザー、「2020 年に向けた教育の情報化推進会議ワーキンググループ」委員、総務省「プログラミング教育事業推進会議」の委員を歴任され、戸田市、下仁田町など複数の市町村、私立学校の ICT アドバイザーも務められており、日本全国の教育委員会や学校でのご講演なども行っていらっしゃいます。
- ・それでは、平井様、よろしくお願いいたします。

## 平井講師

- ・本日はよろしくお願いいたします。(プロジェクター使用)
- ・「with コロナ、after コロナにおける学校の ICT 教育」ということですが、基本的に after コロナはもうないなと私は思っています。世の中が変わってしまっていて戻れないという中で、今回、GIGA とコロナが一掃に来てしまって、ちょっと混乱を来しているのが日本中の現状ですが、それでも整備していかなければならない。その時に何でこれをするのかを考えると、私はいつもそこの話からします。

- ・何でこんな風に学校が変化をしなければならないのか、教育が変化しなければならないのかということですが、画面をご覧ください。これは野村証券がやった調査ですが、100の仕事があります。ざっと見ていくと、製造業がある、窓口業務があるけれども、これらは将来全部なくなってしまう仕事です。この中にある知識集約型の仕事や、技能集約型の仕事はAIとかロボットに代わられてしまう仕事です。これから特に中学校の先生は大変だと思うのは、キャリア教育をやっていて、職場体験をする時に、「ごめんね、君の体験した仕事はもうなくなっちゃうんだよ」とは言えません。お父さん、お母さんもいますから、こういう仕事についていると大変なことになってしまう。私が若いころは、銀行員になると、「よかったね」と言われたけれども、今の銀行はリストラの嵐で、窓口業務がなくなってきている状況です。なくなってしまう仕事は仕方がない。弁護士とか会計士という仕事も、これからAIに代わると言われています。逆に残る仕事は何かというと、これが残るであろうと言われる100の仕事です。小学校の教員、中学校の教員は要るんです。残る仕事。
- ・そもそも学校というのは世の中に出て役に立つことを学ぶ場であると思っているけれども、こういう仕事、これに類似するような仕事に就くとしたら、必要なスキルは何かを考えていかないと、学校の役割ははっきりしないんじゃないかなと思うんです。そこでこういった仕事に必要なスキルは何かと考えていくと、私は「コミュニケーション能力」だろうと思っています。
- ・このコミュニケーション能力は、普通に会話するだけではなくて、自分の考えていることを、文字や言葉、図や表、極端な話では映像で示していくこと。それを逆に読み取ること、そういったやり取りがコミュニケーション能力だと思っています。これができないと就職もできない。去年、一部上場企業のカルビーでは、就職の一次エントリー、就職の一番の入口のところは紙でもネットでもなかった。動画だった。自分のプロモーションビデオ、動画を作らないといけない。要するに、コンピュータを使って動画が作れないと就職できない。逆に会社から言うと、それが作れないような、つまり「クリエイティビティ」のない人間は要らないということです。ゼロから物をつくり出すような力。先ほどの消えちゃう仕事というのは、ルーティーンでできる。マニュアルがあればできる仕事はだんだんなくなっていく。クリエイティビティが必要な仕事は残っていくことになります。逆に言うと、これからはこれがないと就職ができない。
- ・もう1つは「スペシャリティ」、特殊な知識や技能、ある意味では高度な知識や技能。例えば医師のような。でも、それに就くためには「何としても就きたい」という意欲も必要です。そして本を読んだって獲得できないような技能を自分で獲得するためのスキル、獲得の仕方を得なければならぬ。それで、学校はこういう力をつけるような教育をしっかりとやってきていましたか、ということが問われるわけです。
- ・知識伝達型の授業ではこのような力は身につけません。一斉教授型の授業でも身に付きません。私はまじめにコツコツやることを否定しているわけではない。まじめにコツコツや

- るのは当たり前で、その上にこれからの子たちは新しい力が必要となるということです。
- ・これは 100 年前の学校ですけれども、黒板の前に先生が立って、ここが大事だよと教えているのでしょけれども、最近の学校も先生のポーズは一緒です。掛け軸がテレビに変わっていますけれども、そのくらいの変化です。これだけ世の中が変わってきて、新しい力を求められている。この中でどう変わっていくのか。今までの教師主導の一斉教授・知識伝達型の授業から、自分で求めていく学習者主体の学びに変わっていく、要するに「勉強」から「学び」に変わっていく。
  - ・「勉強」という字を思い浮かべてみると、「勉めて強いる」ですから苦行です。そうではなくて、「学び」というのは、今まで分からなかったこと、知らなかったものが分ったり、新しい知識を得たりというのは、わくわくするものではないでしょうか。ここを「学び」に切り替えていくということになります。
  - ・そうすると、自分が主体的に学ぶためには目的意識が必要です。何としても解決したいとか、できるようになりたいということになってくると、教室での授業も、探究型の学びということに、今回の学習指導要領は変わってきました。今までの教育のスタイル、私が子どもの頃に受けてきたようなスタイルだと、今の必要なスキルは身につかないという心配があったからです。今までの学習指導要領の改訂が指導内容の変更点をあげてきたものだったのが、「学び方を変えなきゃだめだよ」というところに口を出してきた。今回、初めてなんですね、授業スタイルに口を出したのは。そのくらい国は今の状況に危機感を持っているわけです。
  - ・授業改革のポイントを挙げていくと、「どこから変わればいいのか？」と学校の先生に聞かれます。一番単純なのは、私は今、皆さんにインプットしている状態で、インプット中心の授業ですが、これが知識伝達型で、ここで終わってしまうのはだめだと。ここでインプットされたものを基にして、本を読んだりネットで調べたりもインプットですが、そこから課題意識を持って、自分の考えをまとめてアウトプットするというスタイルになってくる。これが私の今まで受けた授業はインプット 10 割、アウトプットゼロでした。テストの時にはアウトプットはしますけれども、そういう授業だった。今まで、私が授業をしていた時だって、アウトプット、インプットの割合は 7 : 3 とか、頑張っても 5 : 5 ぐらいでした。これを 3 : 7 ぐらいで、最初のインプットをいかに減らして、子どもたちの活動を増やしていくか。簡単に言うと、先生が黙って、子どもたちがどんどん発言するような、ものを書いたり、作ったりというような、子どもたちのアウトプットを増やしましょうということになります。
  - ・これを急に今の時間の中でやっていこうとすると、なかなか難しい部分があるから、テクノロジーの力を借りて、今、私がプレゼンテーションのツールを使って説明しているように、色々なツールを使ってやりましょうということになります。ただし、これだけでもだめなんです。アウトプットだけの授業はアウトプットの垂れ流しになってしまう。アウトプットをしたら、必ず他の子たちからのフィードバックが必要になります。小学校の低学

年だと、「僕も同じです」とか「つけ加えます」とか。そういうことから始まっていて、「いや、僕はこう思います」という風にしていく必要があります。アウトプットの垂れ流しの授業というのは、だいたい誰かが発表すると、先生が「はい、拍手」と言う授業です。あれをやっている先生は、僕は信用しません。「はい、拍手」が許されるのは小学1年生までです。人の前で発表することが素晴らしい、偉いというのは小学1年。2年生からはフィードバックを大事にしていて、必ずインプット、アウトプット、フィードバックがぐるぐる回るような授業をつくっていかなければならないと思っています。このフィードバックの仕方も全員でやっていくとなると、今の40人学級でやっていくためには効率よくやる必要があります。それからアウトプット、フィードバックがきちんと記録として残るようにしなければならぬから、やはりテクノロジーを使っていくことになるわけです。

- それを支えるのが今回の「GIGA スクール」です。1人1台のタブレットは当たり前です。社会人で、複数のコンピュータを会社の中で使い回している人はいませんよね。僕は1人1台だっただめだと思っています。実際に仕事をするときには何台使っているか。1人2台ぐらいは普通になってくる。コンピュータとスマホとか、色々組み合わせて使っています。私自身も今日、3台持ってきています、MacとiPadがあつて、こっちはchrome bookが入っています。どこでも仕事ができるように使っています。今日も帰る途中、どこかに立ち寄ってオンライン会議をします。家に帰っていたら間に合わないから。社会はそういう考え方になっています。どこでも仕事をするから、クラウドが必要です。データを学校のサーバーに置いておくというのは間違っています。学校にサーバーを置いておくのは、物理的に盗まれるんです。担いでいかれたら終わりです。クラウドは安全です。少なくとも学校に置いておくサーバーよりは安全です。タンス預金よりは銀行預金なんです。
- そしてクラウドのためには通信がしっかりしなければならないから、Wi-Fi等かLTEの通信回線が必要です。ここが「GIGA スクール」です。ただ、これもこれだけ整備すればいいというものではない。
- 「GIGA スクール」については、私は立ち上げから関わっていて、去年3月から始まったのですが、その頃の文部科学省の課長と2人で、何で学校のICT化が進まないのかの原因を考えよう、と話したときに、そもそも学校や教育委員会の中にビジョンがないのではないかと。こういう授業を、こういう教育を目指そうというものがあつて、そのために必要なものは何かという議論をしなければならないと。でも、そんなお金はないと。それじゃ国が出そうということで「GIGA スクール」が始まりました。
- さて、それが11月から始まったところにいきなりコロナが来てしまった。これには困りました。藤沢市も2年かけてじっくり取り組もうとしてきたことが、急にフル回転でやるしかなくなってしまいました。これが今、日本中で起きています。そのときに私の頭の中に「これから世界がどんなに変化し、予測困難になっても自ら課題を見つけ、自ら学び、

自ら考え、判断し、行動し」という言葉が残っていた。これは何の言葉なのかというと、実は、文部科学省が新しい学習指導要領について作ったパンフレットに書かれている言葉なんです。これを見つけたときに僕はびっくりしました。「文部科学省は預言者か！」と。「どんなに変化し、予測困難になっても」というのは、まさに2月からの状況ではないでしょうか。

- 日本中の学校が臨時休業というのは、今までにないんです。太平洋戦争の時も、震災の時ですらもそういうことはなかったんです。これは非常事態なんです。その時に休業している学校の子どもたちは、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断し、行動し」ができていましたか、ということなんです。これが問われたんです。残念ながら、日本中でできませんでした。ほとんどの学校は難しかった。先生方はプリントを配るなどした。でも、本来は、先生が何もしなくても自分で考えて行動できる子たちを育てなければならない、そういう子に教育しなければならないということなんです。改めて私たちは心の拠りどころに戻る必要があると思います。そしてそれを助けるための環境を整備しなければならない。
- 実は世の中も変わりました。私は3月の頭からずっと家にいます。強制的な働き方改革です。オンラインですずっとやっています。半年、家にこもっています。そうすると、これがテレワークになったときに、社会人としての必要なスキルが変わってくるんです。私は色々な会社の社員たちも企業人に対してもレクチャーすることがあります。その中で聞いてみると、これまでになかった自己管理能力が必要だという方がいるんです。セルフマネジメントです。こういったところまで新しい力が必要になってきた。
- 先ほどコミュニケーション能力と言いましたけれども、今までのコミュニケーション能力というのは、リアルで話しているのをコミュニケーション能力と言います。コミュニケーション障がい、いわゆる「コミュ障」という言葉もあるけれども、これまではオンラインでは話ができていても、リアルではできない人間をコミュ障と言いました。けれども、これからのコミュ障は違います。リアルとオンラインと両方で会話できなければ、コミュ障なんです。テレワークの時代はそうじゃないですか。こういったところに新しいスキルは求められて、今までよりもさらに高いスキルが子どもたちに求められています。
- 私たちはもう逃げ切り世代ですから大丈夫なんですけれども、これからの子どもたちはそうはいかないということです。
- 色々な子どもがいることを休業中に気づきました。例えば家で1人で勉強したら校則なんて関係ないです。自分が自分のことを律しなければならない。それから制服、テレワークをやっていれば、何を着ても関係ないです、上半身しっかりしていれば。
- それから先生方の一方的な授業。先生が喋りっぱなしの授業なら、Youtube で予備校の先生がすごい授業をやっていますから、これも意味がない。では、学校って何なのか。子どもたちは友達と一緒に話をしたい、学びたい、友達と学び合うこと、それは家ではなかなかできない。それからみんなで一緒に何かを作り上げたいとか、探求したいとか、そう

いうことはできないよねという風になってきた。色々なことを子どもたちは考えていました。

- ・さて、実際に臨時休業時の対応はどうなったのか。これは文部科学省が4月18日にやった調査ですけれども、教科書や紙の教材を活用した家庭学習、これは100%です。まあ実際には紙の教材以外の他のこともやっていたから、実際に「紙の教材だけ」でやっていたのは、100%のうちおよそ70%です。これが昭和型のアナログ学習です。紙の教材やプリントを配ったことについて、千葉県教育委員会が調査をしたのですけれども、休業中の家庭学習は学力定着せずという予想どおりの結果が出ました。一方的に配っただけでは意味がなかったということです。やらせっぱなしはダメだったのです。それをやっていた学校は保護者の信頼を失いました。一生懸命配ったりしたけれども、労力の割には、余り成果がなかった。
- ・それからもう1つ、これはテレビ放送を活用した家庭学習、NHK放送スクールみたいなものとか、それから私の茨城県も指導主事が必死になって作った動画を配信したりしました。学校が作ったケースもあります。動画を見るというやつです。そしてデジタル教科書やデジタル教材、つまりドリル系のものを使ったもの。25%ぐらいは一方通行の家庭学習でした。これをオンライン学習と言います。非同期型の学習とも言いました。これはあくまでも授業ではないです。これもやらせっぱなしはだめだったということになっています。これと何かを組み合わせる必要があります。
- ・それからもう1つ、同期型のオンライン学習、私はよくZoomとかTeamsとか色々テレビ会議のシステムを使ってやっていました。これをやっていたのが5%なんです。つまり5%の同期型、25%の非同期型、そして70%のプリント学習というのが日本の状況でした。ただ、今は大分改善されつつあります。
- ・ただ、Zoomなどを使ったオンライン学習もいよいよでいて、45分か50分、先生が喋りっぱなしのオンライン学習だったら意味がないですよ。ここを何とかしなければならぬということなのです。動画の教材だって45分言いつぱなしというのはあり得ません。大体、先生方も慣れてきて、分かってきて、その位やっても、子どもたちはYoutubeで慣れていますから、どんどん早送りしてしまいます。ひどい時だと、倍速、3倍速で聞いていますから。一方通行は絶対だめなんです。そこにリアルなやり取りもうまく組み合わせることが大事かなと思っています。
- ・それでは、オンライン授業を実際に見てみましょう。これは私がアドバイザーをやっている熊本市です。熊本市は3月の頭からこれを実験的にやりました。これは出欠を取っているところです。小学校の場合なんかは特にそうなんですけれども、学力向上よりもまず子どもたちの心の安定です。非常事態ですから、うちに1人でいて不安な時にやり取りができてると、繋がっているという安心感、先生と子どもたち、それから子どもたち同士のお互いに顔を見られるという、みんな繋がっているという安心感がスタートだったのではないかと思います。このときにここではGoogleフォームというのを使って、色々な



アンケートなんかも取ったりしました。

- それからこれがロイロノートという授業仕様のアプリですけれども、今日 1 日、こんなことをやったよというのを子どもがカードで先生に送って、先生はそれに赤を入れて返す。それを全員で見せ合っている。みんな、こんなにやっているんだなということがわかる。「俺は、サボっちゃったけれども、他の友達は結構まじめになっているな」と焦るだとか、色々なやり取りができるということがあります。つまり顔を見るだけの Zoom に、もう 1 つプラスアルファの何かをくっつけるということが起こってきました。
- 面白かったのはこれです。肩を動かしていますけれども、養護の先生が、うちにずっとこもりきりの子たちに向けて肩こり体操を教えている。つまり学校と子どもが繋がっているところから始まったのが、うまくいっているところの例かなと思います。
- それでは、授業はどうしているかという、これはある女の先生ですけれども、えらくアナログの方法ですけれども、画面に対して自分の課題を 5 分から 10 分間見せて、子どもたちはそれについて質問している。こういう電子黒板的な大型テレビは子どもたちの顔が大きく見えますから、こうやって伝えている。喋りっぱなしではなくて、課題を与えたら、子どもたちはじっくり解決する時間を取って、最後、でき上がった物を提出する。どんなことを提出したかという、(画面図示) ことです。
- これは 4 年生の英語の授業です。この学校はもともと iPad を使っているので、「クリップス」という動画のアプリがあったので、それを使って作りました。お母さん役をやっていたのは 6 年生のお姉さんで、姉妹の合作でした。これを急にやれといってもできないんです。日常的にこういったツールを使ってやっているから、オンラインになってもいくらでもできちゃうわけです。熊本市でやったのは、休業前の登校日のときに Zoom というテレビ会議のシステムの使い方だけを子どもたちに夢中で仕込んで、先生もそれだけ練習して、あとのアプリは普段使っているものを使っていたということなんです。急にやってもなかなかうまくいかない。普段の日常の学びがここで見えてくるんです。普段から一方的な授業をやっていると一方的なものしかできないし、プリントしかできない。今回の臨時休業の取組の中で、先生たちは一方的なものはあまり意味がないという色々な気づきがありました。これがこれからの日本の教育を変えていくのではないかと思います。Zoom だけでなく、プラスアルファのものを使って、こういうやり取りができるようになるといいなということなんです。また、配信型の教材と双方向のオンラインと色々な学び方を組み合わせることが大事なのかなということなんです。こういったものが可能な環境を整えていくということが、これから求められてくるのではないかと思います。
- 環境面で言えば、コロナのおかげで GIGA がステップアップしました。GIGA の整備が急にグレードアップしました。1 人 1 台の環境だけでなく、どこでも学ぶようになってくると、ID、パスワードを一人ひとりが持つということです。例えば chrome book なら Google アカウントを 1 人 1 台持って行って、シングルサインオンといって、どんなアプリでもそれに入っていけるという環境が必要になってきます。これからの時代、ID はとて

も大事になるから、小学校 1 年生であってもこれは埋めることはできます。「これは大事なことなんだよ」、「パスワードを人に教えてはだめだよ」とか、そういうことも教える、これがリテラシーです。それからクラウドプラットフォームとかポータルサイトとか色々言いますが、ホームページみたいなところに、子どもたちがアクセスして、今日の課題をそこから持ってくるとか、そこに課題を提出するとか、そういうものが必要になります。よく Google クラズルームとか、Apple にもクラズルームがありますが、そういったものが学校と先生、子どもたちと家庭を結びつけるような土台、媒体みたいな場所がネット上に必要だということです。

- そしてどこでも使える通信環境ということになります。家庭の Wi-Fi を使おうが何しようが、とにかくどこでも繋がっているということが基本になっていきます。この辺がこれまでよりも、家でも使えるようにすることが大事になってきました。それもセキュアな環境、危なくない環境でやれるようにすることが大事になってきます。ちょっとグレードアップする、こうなると、お金がかかるんですが、11 月の時点よりもちょっとお金がかかるようになってきました。
- それからもう 1 つは、「一律の学びから多様な学び」ということです。熊本市では色々なやり方をしました。オンライン授業もやっただけでも、テレビも使いましたし、長期休業だから、自由研究をやっちゃえとか、随分乱暴なことまでやりましたけれども、とりあえず何でも手段を選ばずやったという感じがします。ドリルも使いましたし、教科書も使いました。紙からアナログからデジタルから全部総動員して、何としても学びを継続しようと思いました。その中で、技能面であったら、AI のドリルがあったよねと。これからドリル系は AI がメインになってきます。どんどんできる子は先に進む、できない子はできるところまで戻る。どこが原因なのかで戻る。これが AI 系のドリルです。そして知識理解のものだったら、「NHK for School」というオンデマンドの教材があります。でも、やはりオンラインの授業は探究です。先ほどみたいに、課題を出してそれを解決していくというオンラインならできます。これをやってくると、多様な学びというのは、学ぶ内容に応じて学び方が変わってくるということです。ドリルが有効な内容もあるだろう、探求が有効な学びがあるだろうと、色々な学び方があるということ、そしてもう 1 つ、学校が始まったらどうなったか、技能だったらドリルがいいよね、知識だったら「NHK for School」を見るとか、教材を見るというのもあるよね。しかし、対面型授業では、これから探究的な学びというものを徹底する必要があると思います。
- さて、こうなったときに、上の 2 つは別に学校でなくてもいいよねということになります。つまり「学ぶ場所の多様化」ということになります。学校の学びと家庭での学びを組み合わせると新しいスタイルができてくるのではないかと思います。「学び方の多様化」「学ぶ場所の多様化」を踏まえて、これからもいつまた With コロナになってくるか。今もかなり厳しい状況ですけれども、こういったものを考えなければならない。今、東京にあるドルトンスクールというところは、午前中は学校で授業をやって、午後からは家に帰

るだとか、そういう形になっています。それも1つのあり方だろうと思います。

- ・変わると言えば、多分、2者面談、3者面談はもう Zoom でいいのではないかと。授業参観ももう学校ではできないでしょう、密になっちゃうから。そうしたら学校の教室の後ろに iPad やタブレットを置いておいて、それを映して、Zoom とか何かで配信すればいいじゃないですか。他にも出前授業。よそから来てもらう必要がない。「市役所の水道課の人の話を聞きましょう」とい授業があったとしたら、水道課の職員は自分のオフィスの机の上から学校とテレビ会議すればいい。学校行事のなかなか難しいときには Zoom で公開するとか。それから不登校の子たちには今、熊本市は学校の授業は、全部でないけれども、オンラインで配信しています。不登校の子たちはどんどん関わりを持つようになる。あとは病気で学校へ行けない子たち、院内学級とか。どっちみち冬になったらインフルエンザになるんですから、学級閉鎖をやりますよね。そのときにこういったものを使えば、学級閉鎖であっても授業は継続できます。インフルエンザで登校できないときに、熱が下がっても1週間登校できませんね、元気なのに行けない。そのときはオンラインでやっても授業に参加できるということになっていきます。オンラインはこれからの学校のスタイルを変えていくでしょう。
- ・もう1つは45分、50分という時間に縛られない学びができます。学校の授業とリンクした家庭での学びとなったら、学校の中でも時間がなくて作品が中途半端になってしまうときに、家でじっくり作りたいということが可能になるのではないのでしょうか。ここでは授業時数という中で問題があるかもしれませんが、新しい授業のデザインというのができるかなと思います。この辺のところが、これから1人1台になったからこそ可能になってくることです。今までとまるきり環境が変わってくるから、新しい学び方ということを考えていく必要が出てくる。これによってオンラインで学校そのものが変わっていく可能性を持っています。ここが私たちの意識を変えていかなければならないところですよ。今までとは違う。With コロナでコロナが終わったわけではない。コロナをきっかけに、コロナというピンチをチャンスに変えて新しい学びを生み出していく。それがこれからの変化のある時代を生きる子どもたちにとって、必要な学びは、オンラインによって色々変わる可能性が出てきたのではないかと思います。
- ・私はいつも最後に同じ言葉で締めくくっています。やってみなければわからないから、やりながら考えていけばいいじゃないか。やってみてダメだったら、撤退すればいいんです。今、ある意味、コロナはチャンスなんです。今までの無駄なものをやめるにしても、コロナですからと言えば一言で済んでしまう。今、変わるチャンスです。とにかくやってみて、うまく行ったらそれを広げればいい。変わるチャンスをうまく生かして、ピンチをチャンスにして、新しい学びをつくっていきたいと思います。どうもありがとうございました。  
〔拍手〕

鈴木市長

- ・平井先生、ありがとうございました。コロナ禍における ICT 教育の必要性は、色々生かせる点もあるということで、皆さん、共有したと思いますけれども、この際、先生にご質問等がありましたら、挙手をお願いします。

## 大津委員

- ・お話はよくわかりました。例えばハード面について、端末の配布とか、1人1台になったとしても、教える側であったりとか、社会の理解みたいなものがないと、例えば学校が預かりの一部みたいになっていたりとか、そういうケースがあると思うのですが、それも社会の理解とか先生方の理解とか幅広い理解というものをどんな風に考えていらっしゃるのかを教えていただければと思います。

## 平井講師

- ・まず社会の理解という点ですが、一番新しいことをやるといったときに、保護者の理解が大きくなってきます。熊本市では探究的な授業をやろうとしたときに、オンラインで授業をやるときに先生が課題を出して子どもに預けてきますね。そうすると、保護者が知っている授業と違うんです。だから、「普通の学校でやっているように、先生、よく教えてください」と言う。教えっぱなしの授業が授業だと思っているから、それを要求されたりします。これは知らないから仕方がないことなんです、「これからの学びというのはこういうことなんだよ」ということを保護者の皆さんに何とかして伝えていく。色々な PTA の集まり等も含めて学習指導要領というのは、私が前段でそもそもの話をしたのはそこなんです。なぜこういう風に変わらなければならないのかということを理解していただくような広報活動が必要になってくると思います。これは同様に先生たちも同じで、「これは大事だから、よく覚えておけよ」という授業をずっとやってきているから、探究的な学びの経験がないから、どういう風にしたらいいのかイメージがつかないんです。だから、その部分を先生方も一緒になって学ぶということが大事になってくるのではないかと思います。これがこれからの教育委員会の大きな仕事になってきます。意識を変えていくということ、どんな授業を目指すかというイメージを持ってもらうことが、とても大事になってくるのではないかと思います。
- ・あとは教育委員会がそれを支えるための機器を整備すると、環境を整えるのが教育委員会の仕事、それを基にして授業、学びを組み立てるのは学校の仕事という風にお互いの役割はできているけれども、新しいことゆえに一緒になってみんなで研修するということが、特に保護者への発信は教育委員会しかできないところがありますので、そういうところは皆さんにお願いするしかないと思っています。

## 木原委員

- ・医学界の方でも、オンラインでの学会参加ということが行われて、今回、初めてそういう体験をしました。そういった経験を様々にしていくことによって、それに慣れてきて、実際によく使えるようになるという意味では、まず始めることが大事ということにはよくわかりました。
- ・1つ教えていただきたいのは、障がいのある方たちのことなんですが、「対面でもオンラインでも授業を受けられる方に対してしか、オンラインでの授業ができない」というデメリットが生じてくると思うのですが、今、障がいがあって、それが対面での授業などで行われている視覚障がい、聴覚障がいをはじめとする各障がいがある方たちに対して、何か行っていってほしいことがあるありましたら教えていただけたらと思います。

## 平井講師

- ・さまざまな障がいがありますから、これもケース・バイ・ケースになってしまうので、非常に難しいところがあります。例えばこういったデバイス1つとっても肢体不自由な子たちに向くものなど、色々違いがあります。特別小学校はもっぱら iPad が多いのですが、肢体不自由は Windows が多い。なぜかという、操作を助けるような道具が Windows には結構多いものですから、その目的に応じて色々なデバイスも選択しなければならないし、先生方も専門的なトレーニングをしなければならないという、その部分が日本は非常に遅れているところで、困っているところです。
- ・それから不登校などもある意味で難しい部分があります。今、やっている学校の中だけでも先生方が普通の授業をやりつつ、オンラインとなるとすごく負担がかかります。この辺もこれから考えていかなければならないのかなと思います。実は、熊本市がやっているところは、とりあえず学校の先生もオンライン配信だけでもやってもらっているけれども、いつそのこと、通信制みたいな感じで、市の教育委員会の方で、その不登校の子たちのための授業を組むような形にして、学校の負担を減らしたらどうかなということをやっています。
- ・実は、小中学校というのは、文部科学省は通信制を認めていないんですが、抜け穴があるんです。不登校と言っちゃえばオーケーなんです。授業としてカウントしてくれます。そこだけがダブルスタンダードになっていて変だなと思っているけれども、不登校の子たちにとってはラッキーなので、そういう授業も授業と認めてくれる以上は、それをうまく使っていくというのも1つの方法かと思います。これは院内学級も同じです。学校と繋がっているという、普通の学校行事、例えば運動会に参加できなくても、それを一緒に病室から見るとということだけでもいいのかなというところはあります。それに何か参加する方法があったらもっと素晴らしいし、抱えているものによってやり方を変えていくしかないなと思います。
- ・多分、障がいに関するところは東大の先端科学技術研究センターというところでやっているの、特別学級の先生方は知っていってほしいかと思います。中途半端な知識で説明す

るのも難しく、ここはプロの方々が全部進めているので、それをうまく教育委員会の方で、指導主事の方々が情報を学校に伝えていくということが必要かなと思います。

## 飯島委員

- ・大学でも新型コロナの影響で4月から8月の初めまでの16回が双方向のオンラインということで、2回だけ対面の授業が許されましたけれども、コロナが怖いという学生もいましたので、そういう学生さんは登校しないで別の課題を与えたというような状況でした。通信環境のせいで音声途切れてしまったという学生が2割ぐらいいました。それから、プリンターがないからプリントアウトが自宅でできないということで、お金がかかるので大学に来て必要な資料をプリントアウトして、手持ちで持っている学生がいるけれども、5枚とか6枚とか資料を与えて、それを読み込んで課題を提出するというようなものを出したときに、プリンターがないためにうまくできなかったという学生が3割ぐらいいました。
- ・1点目といたしましては、インターネット環境等を整備したときに、プリンターがなくても双方向のオンデマンドの授業というのは、先生と生徒の間で可能なのかということです。次に、教職課程を持っているもので、オンラインでできることと、対面の授業でないとできないことがあって、教職課程ですので、模擬授業みたいなことを通常ならしてもらったけれども、家ではそういうことができないということで、その辺のところでは何か工夫する余地があるのかどうか。その2点について、ご示唆いただくとありがたいと思います。

## 平井講師

- ・まずはペーパーレスですね。私はよく「G Suite」というGoogleのサービスをよく使うのですが、全部ペーパーレスで、課題がデータで来て、それに書き込んでまたデータで送り返す。そういう時代になってきているのではないのでしょうか。それで十分できると思います。先ほどクラウドプラットフォームというやり取りをする場が必要だといったのはそこなんです。保護者に対してのお手紙なんか、夏休みになるとわっときます。あれが全部PDFのデータで来るとか、そういう形になれば、子どものランドセルの下の方でぐちゃぐちゃになったものを後から発見することもなくなるし。あとは出欠とかのやり取りはGoogleフォームというアンケートのツールを使えばできるようになるし、紙のデータというのはだんだんなくなってくるのではないかと思います。そういう部分を慣らしていかないと。会社の中でこれから紙は消えていきますよ。そういうやり取りになってくるのではないかと思います。
- ・それから授業の中でもオンラインの授業の組み立て方と、リアルな授業とちょっと違ってくるんです。そこがネットの中でも授業をやっていけます。実は明日、宮崎の小学校の1

年生から6年生までの授業をやるのですが、全部オンラインでやります。僕の顔を大きく映して、子どもたちは自分の席に座って授業をやるんです。見えないからこそ、もう1つのツールを使ってやりとりをする。そういうやり方がだんだんできてくるようになります。例えばニコニコ動画なんかで画面の上の方に文字が流れてきたりしますが、あれをよく使っています。コメントスクリーンというアプリがあるのですが、それを指導主事の方々は覚えておきたいと思うので、後で調べてみてください。そうすると、すぐにコメントが出てきたり、僕が喋ったのがいいと思ったら、ハートマークとか good job マークが下から上がってきたりする。オンラインだと反応が見えないと不安になりますよね。でも、最近、慣れてくるとオンラインの方が授業をやりやすいと思うときがあります。リアルるときよりも子どもの授業の様子が把握できるから。今は教室の中をぐるぐる回るのも難しいですよね。色々と壁を作ったりして試していますが。リアルな授業、対面で話し合ったりする授業、それからオンラインの授業。両方とも、オンラインだからできないというよりも、かえてできるのではないかと、オンラインの方が話しやすいという子もいますから。とにかくやってみるのが一番です。普通の探求の授業というのをやってみて、その中で学んでいくことが一番大事かなと思います。

- ・実際に私もプリンターは家にあるけれども、あまり使わない。役所の仕事をするときだけ使うんです、紙で送って下さいと言われるので。そろそろ PDF にしてくださいと言いたくなるけれども。企業と契約しているときは、判子を押したものを PDF でデータにして送ってしまえばそれでオーケーになりました。大分変わってきたので、ペーパーレスというのは、今回のコロナのおかげで一気に進んでいくのではないかと考えていますので、教育の中でもそういうペーパーレスにしていくような取り組みが必要かなと思います。

## 飯島委員

- ・どういう機器を自宅で大学生が使っているかという、パソコンがない子もいたり、スマホでやっているという子もいたり、それからタブレットを持っている子がいて、スマホでもマイクがないスマホだから声が出せないということで、チャット機能があるからチャットで何か言ってくるというので、応答に時間がかかったりとか。いわゆる双方向の授業の中でも質問してもなかなか回答が返ってこないなど、通信機器によって色々な状況があるということがわかりました。中学校、小学校ではそういう課題は多分ないのだろうと思うのですが、そういうことに対してはどう考えたらよいのでしょうか。

## 平井講師

- ・とりあえず小学校、中学校は今回の GIGA のおかげで、同じ機器が1人1台になりますから、全部揃いますので、その部分は一応解決されると思います。ただ、家に帰ってまでこれを使えということばかりではないと思うんです。多分、今回の GIGA の中で一番売れ

ているデバイスは、画面が小さくて見づらいところがありますから。僕は、「家で使うなら、大きい外付のディスプレイを1つ買ってもらってください」とか、「1万円ちょっとで買えますので、お父さんもこれから使いますから」と言ったりするのですが、大きい画面の方がいい時もあります。ただ、家のパソコンを使っても結構ですから、その時にどのパソコンでも使えるというような、クラウドで動くやつ、アプリでなくてブラウザベースとって、アプリではなくてクラウドにデータがあるやつを上手く組み合わせていくといいのかなと思います。多分、これからそうなってくると思います。あと、5年後には多分 BYOD (Bring Your Own Device) という個人持ちのパソコンになってきます。今回、コロナの中で一気に整備されちゃいましたから、5年後に全部買い替える時に、財政負担が一気に来るんです。多くの市町村はそれに耐えられません。税収が下がっていますから、こういう中でやると、次は BYOD になって個人持ちになる時に、何が来ても大丈夫なような環境、つまり全部クラウドでやれば、それは解決できるので、そういったことも必要になってくるのではないかと思います。

- ・そのためには通信環境も含めて、あと5年間かけて、家でもどこでも Wi-Fi があるとか、そういう様な状況を作っていくためにもバンバン使っていないと、家庭でも理解を得られないと思います。個人持ちになった時に、5年間、ほとんど家に持ち帰って使っていない状況だったならば、こんなものにお金を出せるか、という話になってしまう。毎日、持ち帰ってバンバン使っているならば、これに対して仕方がない、必要だと、ランドセルよりもタブレットという時代になるかもしれません。そこまで日常的にやっていく必要があるのではないかと思います。ただし、小学校の場合にはアナログとデジタルのバランスが必要になってきます。手を使って物をつくることも、書くことも大事。こちらへつけることも大事、どちらかではないんです。両方大事なんだという意識で取り組まれるのが大事かと思います。

## 市村委員

- ・本日はありがとうございました。教育委員としてお話を聞かせていただいたというのもあるのですが、高校生の息子が2人おりますので、保護者としても、また、私は IT 企業で働いているので、そういった観点からも大変勉強になったと思います。職場の方もコロナの影響で3カ月以上テレワークをやっているもので、ずっと家にこもっている状態なのですが、Teams の会議では毎日のようにオンラインで行っておりまして、今日、お話にもあったように、子どもたちも非同期型のオンライン学習よりも、同期型の双方向でコミュニケーションのとれるようなオンライン学習が大事なのではないかと感じる事ができました。
- ・1つ、質問をさせていただきたいのですが、先生の略歴を見させていただいている中で、セルラー型タブレットの導入を推進されたということですが、セルラー型タブレットというと、SIM カードか何かが入っていて、例えば Wi-Fi と繋がなくても単体で繋ぐこと



ができるようなものなのかなと認識しています。このセルラー型タブレット導入を推進した理由と、経緯を教えてください。

## 平井講師

- ・そうです。はっきり言って、その時には Wi-Fi が買えなかったんです。よく Wi-Fi の方が安いのではないか、セルラー型は高いのではないかとされているのですが、完璧な Wi-Fi を作ろうとしたら、私がここまでやった時には Wi-Fi の方が高かったんです。どこでも確実に繋がれるようにすると、その頃は結構高かったんです。シスコの Wi-Fi を入れようとしたのですが、シスコは高すぎて、完璧にしようとする、だめだったんです。今、日本中の学校で今まで ICT 機器が使えなかった理由の大きなところは、Wi-Fi の環境が脆弱だったということなんです。使おうにも使えなかった、繋がりが悪いよ、となっちゃったので、それを完璧にしたかったのでセルラーにしました。社会人の皆さんがスマートフォンを使っていると、自宅で Wi-Fi が繋がるところは Wi-Fi に繋がりますが、他のところだとセルラーを使っていますよね、LTE を使っていますよね。それと同じような使い方をしようという、ただそれだけです。特に小学校などは校外学習が多いから、外でもどこでも繋がるようにしておきましょうよと。それを私はハイブリットと言っているのですが、それを今進めています。

## 岩本教育長

- ・本日はありがとうございました。3月まで私も中学校の校長をしておりまして、お話の半分は現場の感覚で聞かせていただきました。ICT 教育の重要性は、ここ何年も言われていることですが、コロナの前と後で随分大きく感覚的には変わったなと思っております。今、教育は対話的ということが言われておりますので、それまでは人対人だということで、グループを作って話し合うというような形で進めてきたという中で、その時に ICT は情報を得る手段であったりとか、また、Power Point に代表されるように、情報を発信するツールであったりとか、また、すべて教室の中で他の生徒との情報共有であったりとか、そういったもののために使えるようなもの、という風に思ってきたわけです。学校の外とネットワークで繋ぐというような感覚は、その頃にはあまりなかったかなと思います。ましてや教員の事故・不祥事がたくさんありまして、ネットに繋がることがそういったことに繋がるというようなことで、諸悪の根源みたいに「ネットワークはだめだ」と言われてきたようなことがございました。ただ、ここでコロナがあり、3カ月の臨時休業があったところで、世の中がガラッと変わりました、何だ、オンライン授業の準備ができていなかったのかと、いきなり言われるわけです。それで一気に整備の加速が進んだのかなと思っています。
- ・先ほど、鈴木市長からもありましたように、藤沢市も「GIGA スクール」を前倒しにして、

幸い、今年度中に小学校まで完了できるということは、本当にありがたいことだと思っております。しかし、これはスタートラインでありまして、これをどのように活用していくかということが、これからの課題になってくると考えております。その上でも今回の平井先生の講演はとてもタイムリーであり、とても重要なポイントを示唆していただいたと思っております。今日の会議に臨むに当たり、平井先生の Youtube の動画をいくつか見させていただきましたけれども、そこで、今すぐにできなくても何年後にできればという風な、確か管理職に向けての講演だったと思いますけれども、そして、また今、つべこべ言わずにやってみろと。とにかく教員というのはプライドが高いところがございまして、完璧にして子どもの前で恥をかかないような形にしないと、一歩が踏み出せないような部分があります。そういった意味では、つべこべ言わずにやってみろというのは、まさにそのとおりだと感じました。きょうの講演から得た知識を広く市内全体に伝えていきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

## 鈴木市長

- ・貴重なお話をいただきまして。これからの藤沢市の現場にも大変役に立つのではないかと考えております。もちろん色々な環境を良くするというのもあるのですが、最初にコミュニティ、スペシャリティあるいはクリエイティブということで、しっかりとしたこれからの方針を立てた上で、ICT をきちんと活用していくと言われましたので、そういったことでもよろしくお願ひしたいと思っております。

## 鈴木市長

- ・次に、議事（２）その他ですが、事務局、何かありますか。

## 事務局

- ・議事としては特にございませんが、次回の第２回総合教育会議につきましては、新型コロナウイルス感染症の状況によって変更があるかもしれませんが、現在のところ２月３日（水）を予定しております。議題と内容等に関しまして、これから教育部局と調整をさせていただきます。テーマ等について取り上げたいものがございましたら、事務局の方へご提案いただければと思います。各委員からのご提案を踏まえて調整の上、決定してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

## 鈴木市長

- ・ただいま、事務局から日程の説明がありました。委員の皆様、関係者の皆さんから全体を通して、何かご質問・ご意見等ありますか。
- ・ないようですので、進行についての役目をお返しします。

事務局（司会）

・それでは、以上をもちまして、「令和2年度第1回総合教育会議」を閉会といたします。

午後2時35分 閉会

2020年（令和2年）11月6日

この会議の経過を記載し相違ないことを確認する。

藤 沢 市 長 鈴木恒夫 

藤 沢 市 教 育 長 岩本将宏 